

高周波パルス電磁界による生体作用に関する研究 に係る採択評価書

研究機関 : 東京都立大学、杏林大学

研究開発期間 : 令和4年度～令和8年度

代表研究責任者 : 大久保 寛(東京都公立大学法人東京都立大学)

■ 実施可能性 : 適

■ 総合順位 : 第 1 位 / 提案者 1 名

(評価点 31.3 点 / 40 点中)

(総論)

- 本研究は、電磁波によって聴覚的に知覚される効果の有無を明らかにしてその成果を国際的なリスク評価やガイドラインに貢献することを目指しており、大いに期待できる。
- 研究を推進することが出来ると判断される。
- 高周波パルス電磁界による生体作用に関する研究課題に対する本提案を採択する上で問題ないと判断する。

(コメント)

- 大変しっかりとした研究であるので大いに期待しているが、補助的な観点に記載したコメントを考慮して実験計画を立案して貰いたい。
- 検討課題にかかげられている「聴覚的に知覚される効果の閾値に関するデータを取得し、電波防護指針との整合性の確認」及び「高周波パルス電磁界による生体作用に関する作用機序についての検討」については、研究期間後期までに、十分な基礎的データを蓄積された上で、実施計画を立てることも必要と思える。
- 後半で取り組むヒト臨床研究の実施では、安全であるという科学的基礎データを十分蓄積され、仮に被験者に電磁波過敏症や遺伝的素因についても確認される場合は、個人情報保護観点も配慮し、IC 中(インフォームドコンセント)でリスク関しても丁寧な説明を念頭に計画されたい。
- 研究全体の位置付けとしては、(ウ)の音響予備実験は重要であり、本実験に向けての基礎データを取得し、それらが臨床研究のベースになると思われるので、ヒトボランティアでの予備研究ではあるが、IC 等は検討されたい。